

# Wakayama University Tourism Update

Semiannual Newsletter of Tourism Education & Practice

WTU Spring/Summer 2017

## Tourism 10th Anniversary



和歌山大学観光学部 10周年記念

2017年4月 和歌山大学観光学部は10周年を迎えました！  
(関連記事：11ページ)

### Contents ー目次ー

1. Reports ー和歌山大学観光学部生の国際 / 地域活動報告を紹介ー
2. Topics ー過去のイベントとニュースー
3. Future Events ー今後のイベント紹介ー

■ 岩永 沙緒理さん（学部4回生 / 佐賀県立致遠館高等学校出身）

参加イベント：The Council for Australasian Tourism and Hospitality Education



『備えあれば憂(うれ)いなし』という諺がありますが、この国際学会では『備えあっても常に憂(う)い』といった状態でした。まず、初めての国際学会で非常に緊張していたから。また、私が唯一の学部生からの参加者で、周りは教授や博士課程の方しかいなかったから。さらには、学術的な内容を理解し、英語で議論することは想像以上にハードな経験であったからです。しかし、現地でそれを嘆いても仕方がないと友人に諭され、「出来ることを数えてごらん。」とアドバイスを貰いました。そこで私は「国際学会に一人で乗り込んでくる学生は私だけだ！出ているだけで偉い！」

と自分を鼓舞することにしました。この経験で強く感じたことは、世界に飛び出す際に、備えの有無を嘆いてブレーキを踏んでしまうのは勿体無いということです。

また、学会では参加者が観光の研究を通して交流することを何よりも楽しんでいる姿が印象的でした。最前線で様々な視点から観光現象を学ぶ人々の姿を間近で見て、空気に触れて、実際にそこに混じることが出来た経験は、例えその時に『憂(う)い』を感じたとしても非常に有意義なものとなりました。

「観光は現在最も注目されている分野」だと言われています。CAUTHE で研究者たちに活気を感じたのは、勢いのある観光のチカラでもあるでしょう。学会に参加する意義は多々ありますが、交流を通して学問的な魅力に改めて気付き、私自身も観光のチカラを実感する経験となりました。

### \*CAUTHE

(The Council for Australasian Tourism and Hospitality Education) :  
1992年にシドニーで設立された学会。学会の開催を通して、ホスピタリティ、観光、イベントの教育および研究に関心を持つ学者や学生間のネットワークの機会を提供している。



## ■ 石丸 健志さん（学部2回生／京都成章高等学校出身）

### 参加イベント：PATA(Pacific Asia Travel Association) 和歌山大学学生支部の会社訪問



PATA 和歌山大学学生支部は、新たな PATA 学生支部としての活動の可能性を見出すため、2017年2月28日～3月1日にかけて、東京訪問を行いました。2016年11月に結成したばかりのこの団体は、現在21名のメンバーで構成され、「元気に、かつユニークな視点で日本の国際観光の成長に貢献する。」ことを目的に、活動しています。今回の東京訪問には10名のメンバーが参加し、この

PATA 日本支部をはじめ、日本の観光業を牽引する会社に対し、団体結成のご報告と、各企業や団体から期待される学生支部の貢献に関する意見徴集や、今後のコラボレーションの可能性について議論することが目的でした。訪問中は、活動目標の明確化や、認知活動の強化など、更なる改善が必要だと痛感することも多くありました。また、対談中は、観光の現状を詳細に何う事が出来るなど、大変貴重な時間を過ごすことができました。今回の訪問を通して学んだことは、自分たちから積極的・主体的に動かなければ何も始まらないことです。今後は、参加メンバーと共に、日本で PATA ユースフォーラムの開催勧誘や、若い世代に向け、国際観光を促進することができるような、世界観光情報の発信拠点として活動していくことを目標としています。今回の訪問は、メンバー各々でこれからの活動を考えられる貴重な機会になりました。



■ 梶田 太陽さん（学部2回生／和歌山県立橋本高等学校出身）

参加イベント：「ミニ・オープンキャンパス in 東京」&  
「観光教育研究セミナー 2016 Vol.7 in 東京『観光からみた宇宙』」



ミニ・オープンキャンパスでは、高校生という立場と、在学している私の立場、卒業した先輩方の立場など、見る人によって異なる和歌山大学の観光学部を感じました。

特に国立大学で観光学部は珍しく、何を勉強しているのかという問いには私自身もまだ答えられません。旅行だけが学びの対象ではなく、光を観るだけが観光ではない。入学して約一年経った今、観光学部での学びの範囲は無限だと感じています。だからこそたくさん考えて吸収する必要がある学部です。正直、日々の学びで悩むこ

とが多いです。しかし、先輩や同期を見ると刺激になり、自分も頑張らないといけないという気持ちになります。今回のミニ・オープンキャンパスでも、観光学部を卒業された先輩方のお話と今の自分を重ねることで見つめ直すことができました。何を学ぶか、何を身につけるのかは自分次第です。観光教育セミナーでは私の興味のある宇宙について考えることができました。非常に心が高鳴る学びがありました。今この瞬間も観光学部の学びとして、世界、地域、宇宙と広がっていると感じています。と同時に、これから更に複雑になるであろう観光学に頭を悩ませると同時に楽しみでもあります。

\* 関連記事は、本紙 10 ページにもあります。



## ■ 西上 怜歩さん（観光学部 2016 年度卒業生／帝塚山学院泉ヶ丘高等学校出身）

### 参加プログラム：和歌山大学観光学部 ピアサポーター



ピアサポーターは観光学部生のための就活支援活動です。今年度も、観光学部 3 年生の就職活動を観光学部 4 年生の有志 5 名でサポートしました。

就職活動状況と志望業界や企業を把握するため、11月に3年生に向けてアンケート調査を実施。志望企業が大学の企業説明会に来た企業に偏っている結果を踏まえ、今年度は「視野を広げる」ことを目標に活動しました。

まずは、就職活動のスケジュールやエントリーフローについて体験談を話すイベントを12月に開催。1月には4年生24名の内定者をお呼びし、計12種にもわたる業界の話や選考フローを聞く内定者座談会を実施しました。

やはり、学部生の1番の人気は、ホテル、旅行会社、レジャー施設などです。他にも、地方公務員や地方銀行も人気です。しかし、観光はたくさんの分野と密接に関わる業界でもあります。

全く目を向けていなかった業界に、実は自分のやりたいことがあるかもしれません。就職活動を経験した内定者から話を聞くことで、視野を広げる有意義な機会になったと後輩からも嬉しい言葉を頂きました。

就職活動は人それぞれの進め方がありますが、全力で取り組まなければ納得のいく結果は生まれません。たった1年ですが、観光学部生の先輩として後輩へ寄与できたことを嬉しく思っています。



## ■ 田中 有希さん（学部3回生／雲雀丘学園高等学校出身）

### 参加プログラム：和歌山大学観光学部 廣岡ゼミ「いこらよ！いつもと違う冬の白浜」



私たち廣岡ゼミは、るぶトラベル様協力のもと、冬の白浜をテーマに旅行商品を作りました。宿泊プランを作るにあたり様々なデータからターゲットを絞り、またそのターゲットにあった観光資源を探しました。特に冬の白浜ということで、リゾート地としてではない白浜の楽しみ方を探し出すことに苦労しました。私たちが見つけた観光資源の1つに、絶景を見ながら入れる温泉がありました。実際に現地調査に行った際に体験しましたが、とても心癒される素晴らしい温泉でした。

しかし、このような素敵な温泉があるにも関わらず、あまり広く知られていません。そこで今回は宿泊プランを作るだけでなく、どのように白浜の魅力をアピールすればよいのか等を、白浜町長の井潤さんにインタビューする機会を設けていただきました。また、白浜の商品企画とともに、福菱様の紀州銘菓かげろうを全国区のお土産にするためにはどうすれば良いのか、社員の方と話し合う機会も得ることができました。そこでは、事前に関西空港で試食販売を行って得たお客様の意見を元に、学生ならではの意見を出させていただきました。

このように社会人の方と意見交換を行ったり、自分たちで考えた宿泊プランが商品化されたりと貴重な経験ができ、とても達成感のあるゼミ活動ができました。

➡ ご当地自慢プラン「『いこらよ！いつもと違う冬の白浜』—和歌山大学観光学部生が考えました！

学生ならではのアイデアで、いこらよ冬の白浜へ♪」は下記 URL からご覧ください。

<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2016122800013/>



## ■ 宮下 凌さん (学部2 回生 / 香川誠陵高等学校出身)

参加プログラム：地域インターンシップ Local Internship Program (LIP)

「みやざき観光コンベンション協会からの依頼に基づいた  
同県「波旅宮崎」キャンペーンのより効果的な展開に対する  
提案、提言作成」(宮崎県)



このプログラムは、宮崎の恵まれたマリンスポーツ環境を活かして、マリンスポーツによる県外からの誘客促進を図るため、学生による宮崎での現地調査(施設観察、マリンスポーツ体験、利用者等への聞き取り等)に基づく課題分析及び課題解消に向けた提案を行うといった実施概要のもと11月25日～28日にかけて行われました。

今回のプログラムの中で都井岬、幸島、鶴戸神宮など多くの観光名所に足を運んだのですが、メンバー全員が最も心に残っているのは、このプログラムのメインでもあるマリンスポーツ体験です。

私たちは、マリンスポーツの中でも全員が初体験であるサーフィンにチャレンジしました。今回のLIPの担当教員であるアダム・ドーリング准教授はサーフィンのベテランであり、私たちには、「みんなすぐできるようになるよ。」と何度も言ってくれていたのですが、正直そんなに自信はありませんでした。しかし、実際にサーフィンをし始めると、みんな30分もしないうちに波に乗れるようになりました。波に乗る気持ちよさはとても新鮮なものであり、メンバーの多くがまたサーフィンをしたくなりました。

宮崎県から帰ってきてからは、このようなマリンスポーツ体験を通して宮崎県にどのように観光客を誘致すればよいかをメンバー全員で考えました。まず全員が口にしていたのが、「サーフィンがもっと身近なスポーツであることを伝えるべき!」ということです。実際私たちのように全員が未経験でも、全員が短期間で波に乗ることが出来ました。一見難しそうに見えるサーフィンもやってみれば意外と簡単であり、気軽に楽しめるスポーツであることを伝えていくとサーフィンを目的にした観光客が増えるだろうと考えました。

また、その他のアイデアとして、サーフィンをしている最中の写真をインストラクターさんが撮影するなどして、販売すればいいといった案が出ました。私たちは、宮崎県に行ってサーフィンを初体験しましたが、写真がないのでその思い出は頭の中にしかなりません。サーフィンをする機会はそんなに頻繁にはないので、「写真などで思い出を形に残せたらいいなあ〜」という案も出ました。また、自分が波に乗っている写真があれば、TwitterやFacebookなどに投稿して友人などの外部に広報することもできます。なので、インストラクターさんがお客さんのサーフィンをしている姿を写真に撮り、提供することは大切であると考えました。

このような私たちが考えた案を、最終的には宮崎県の観光庁の方とSkypeをつないでプレゼンテーションしました。私は今回の宮崎LIP全体を通して、宮崎県の魅力やサーフィンの魅力だけでなく、観光客を誘致するにはどのようなことが大切であるのかをしっかりと考えることができました。私は将来的に地元の地域づくりに貢献したいと考えているので将来的に必ず役に立つ経験をできたと思います。



■ 坂田 尚紀さん (学部4回生 / 近畿大学附属和歌山高等学校出身)

参加プログラム：地域インターンシップ Local Internship Program (LIP)

「有田市矢櫃地区空き家活用による地域活性化プロジェクト」  
(和歌山県有田市)



海がとても綺麗な有田市矢櫃地区は、釣り人の間では有名なフィッシングポイントで、昔から釣り目当ての方がたくさん訪れてきました。しかし、街としては、車が入れないほど狭い道や急勾配の坂道が原因として生活の場としての多くの困難があり、若者は都市部へと移住し、人口減少と住民の高齢化が深刻な問題になっています。そこで私たちはLIPとして、矢櫃地区の活性化を大きな目標として掲げ、人口減少に伴って増加する空き家をどう活用することができるのか、その利用方法の模索をメインテーマとして有田市役所の職員

とともに地域活性化プロジェクトを遂行しました。前段として矢櫃地域住民のお宅に一軒一軒お邪魔し、その暮らしや日々の苦勞、何が矢櫃に必要なのか、を聞き取り調査しました。そして、活性化のヒントをたくさんいただきました。矢櫃の強みを活かし、住民の負担にならず、矢櫃地区を盛り上げるためにはどうしたらいいのか。調査をまとめて、釣り大会の開催やゲストハウスとしての空き家利用など、矢櫃の活性化に向け色々なアイデアを考え、地区の方々に提案し、意見交換をしました。住民との意見交換の中で浮上してきたのは「お日待ち」という地域の祭りでした。お日待ちとは陰暦の正月、9日を縁日とするお祭りです。この祭りはかつては地域の若者が海に入って心身を清め、そのまま近くの南龍神社、戎神社に参詣する「裸参り」から始まりました。しかし、若者の減少が原因となり35年ほど前に途絶えてしまい、「裸参り」無しのお日待ちが続いていました。この「裸参り」の復活が実は住民たちにとっての悲願であり、私たちにとっても、外に出て行ってしまった若者たちとこの街を繋げる仕組みと考えたので、復活のお手伝いをする事になりました。学生4名と木川准教授、有田市役所職員数名に、地元の親子も参加して、計12名がふんどし姿で海に入りました。とても寒くてガタガタ震えていましたが、地区に住む大勢の人たちがお日待ちの復活を見に来てくださり、激励の言葉をかけてくれたり、喜びの気持ちを伝えてくれました。「こんなにも地域が盛り上がったのは久しぶりだ!」と言ってくれる方もいらっしゃり、非常に嬉しかったです。寒空の中、海に入るなんてこんな機会がなければあり得ないですし、それが地区を盛り上げるイベントであったならなおさら、この活動に参加できてよかったと思います。矢櫃地区という小さなまちと深く関わった最高の活動でした。



## ■ 南 郁歩さん（学部3回生／玉名女子高等学校出身）

### 参加プログラム：地域インターンシップ Local Internship Program（LIP）

#### 「和歌山市立伏虎中学校の閉校記念誌づくり」（和歌山県和歌山市）



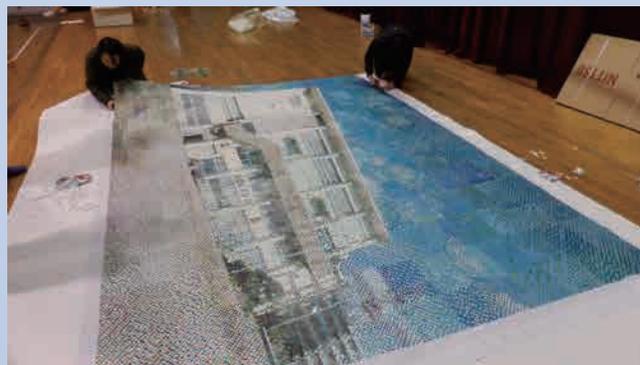
本 LIP では、歴史ある和歌山市立伏虎中学校の閉校に際し、思い出に残る記念誌の作成を行うことを目的としていた。しかし、学校側と意見交換を行う中で生徒や教諭と関わりながら3月に行われる閉校記念イベントの手伝いもさせて頂けることになった。

まず、本来から予定していた閉校記念誌づくりでは、伏虎中学校育友会の皆さんと連携し、「伏虎中あるある」、「寄せ書き」を企画した。「伏虎中あるある」では伏虎中ならではの「あるある」話を、在校生だけ

でなく、卒業生や先生方にも書いてもらうことで、長年変わらないこと、世代によって変わったことを明らかにできるのではないかと趣旨で実施した。また、「寄せ書き」では伏虎中のさまざまな場所の写真に伏虎中への感謝の言葉や思い出を、在校生全員および先生方に書いてもらった。

閉校記念イベントについては、まず顔合わせをした後、中学生が企画したいいくつかのイベントについて質問や本当に実践可能かを検討し、企画を「くす玉」、「モザイクアート」に絞りこんで、その後何度か中学校に足を運び、協働的实践を行った。作成のメインは中学生で、私たちはあくまでも手伝い、技術的なアドバイス等を行う立場であるということ念頭に置いて作業にかかった。閉校にあたり、かけがえのない思い出をつくるには、中学生が自ら作り上げていくべきだからである。中学生も時間がない中で実に大変そうではあったが、楽しみや誇りを持ちながら作業している様子で現場の雰囲気はいつも良かった。

時間をかけて互いのことを理解し、意思疎通を図ったことで最後に素晴らしい閉校集会の日を迎えることができた。短い期間ではあったが、今回のプロジェクトは、中学生だけでなく、私たちにとっても心に残る時間、経験となった。



### ■ 日本初！ 和歌山大学観光学部が国連機関の観光教育認証 「UNWTO.TedQual (Tourism Education Quality)」を取得しました！



2017年3月、和歌山大学観光学部が国連世界観光機関（UNWTO）の関連組織である UNWTO Themis Foundation が実施する認証制度「UNWTO.TedQual (Tourism Education Quality)」の認証を取得しました。国際観光学研究センター（CTR）のサポートの下、

申請準備と TedQual 認証のための 100 項目以上の厳しい基準をクリアし、国内では唯一、初めての取得となりました。

この TedQual は、観光学教育、研究、訓練プログラムの質の向上を目的とし、世界の観光学教育・研究をリードする大学、研究機関が認証を受けています。

この認証取得により、観光教育、研究のグローバルネットワーク（交換プログラム、共同研究、国際学会等）へのさらなる参加や Themis Foundation との共同プログラムの実現が可能となりました。

和歌山大学観光学部は、今年4月に学部設置10周年の節目を迎えました。この TedQual 認証取得を弾みに、国際観光学研究センターと観光学部との連携も深めつつ、観光学をリードする教育研究機関として、また、日本、アジア太平洋地域における観光学教育・研究の牽引機関としてさらにダイナミックに進化します。

➔ <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>

### ■ 「ミニ・オープンキャンパス in 東京」 & 「観光教育研究セミナー 2016 Vol.7 in 東京『観光からみた宇宙』」開催！



和歌山大学国際観光学研究センターおよび観光学部（藤田武弘センター長/学部長）では2016年12月17日（土）、フクラシア品川クリスタルスクエア（港南口）3階会議室（東京都港区）を会場に、「ミニ・オープンキャンパス in 東京」、ならびに「観光教育研究セミナー 2016 Vol.7 in 東京『観光からみた宇宙』（京都大学宇宙総合学研究ユニット共催、観光庁後援）」を開催しました。



「ミニ・オープンキャンパス」では、佐々木壮太郎教授による観光学部の概要説明に加え、様々な業界で活躍する卒業生と現役学生によるリレートークを行い、学生の目線から見た本学部での学びが紹介され、参加者は熱心に耳を傾けていました。

また、「観光教育研究セミナー」では、学术界や産業界、そして宇宙に関心のある一般の方々など60名を超える参加者を迎え、山崎直子氏（元 JAXA 宇宙飛行士、宇宙政策委員会委員（内閣府）、和歌山大学観光

教育研究アドバイザーボードメンバー、同国際観光学研究センター客員特別研究員）による「宇宙という新たな体験の場」と題した基調講演が行われました。基調講演後には、尾久土正己和歌山大学観光学部教授から観光と宇宙に関して和歌山大学観光学部の取り組みについて、磯部洋明京都大学大学院総合生存学館准教授から分野を超えた宇宙研究に関して、京都大学宇宙総合学研究ユニットの取り組みについて、それぞれ活動報告が行われ、その後山崎直子氏、秋山演亮和歌山大学協働教育センター教授、梶田太陽氏（和歌山大学観光学部1年生）、中里真氏（京都大学大学院人間・環境学研究科1年生）をパネリストとして交え、本学中申孝志准教授をモデレーターに「大学生からみた宇宙」と題したパネルディスカッションが行われました。

## ■ 2016 年度学位記・修了証書授与式が執り行われました！



2017年3月24日（金）、2016年度学位記・修了証書授与式が執り行われ、観光学部生 115 名、大学院観光学研究科博士前期課程 10 名、大学院観光学研究科博士後期課程 1 名が、学士・修士・博士の学位を取得し、新たなステージへと旅立ちました。

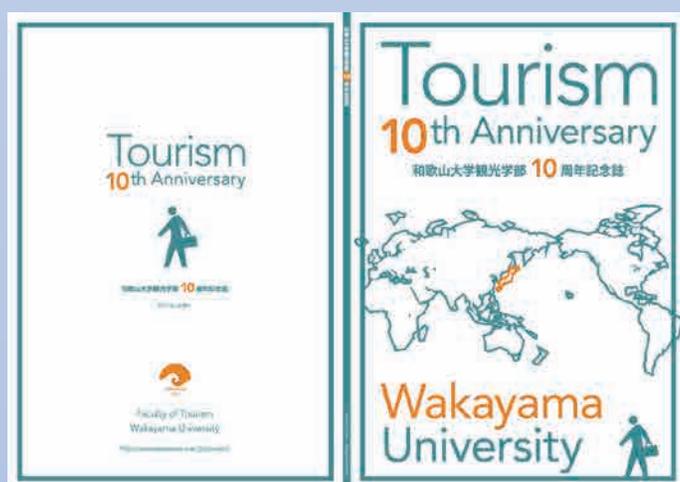
和歌山市民会館で行われた授与式に続き、観光学部棟で学部成績優秀学生等表彰（学部成績優秀者表彰（最優秀学生賞：別府まゆみさん、優秀学生賞：内芝伶奈さん、岡部 華さん）、卒業論文優秀表彰（最優秀賞：家谷翔太さん、優秀賞：内芝伶奈さん、小澤秀斗さん）、修士論文優秀表彰（最優秀賞：中谷吉弘さん、優秀賞：渡邊 幸さん）、ピアサポート表彰（落合 匠さん、肥田和明さん、西上怜歩さん、山岸莉那さん、田倉江莉さん））が行われました。その後には同窓会総会、謝恩会が開催され、お世話になった教職員や友人、後輩と記念撮影をするなど、学生生活最後のひと時を楽しんでいました。

卒業生・修了生の皆様のご活躍を期待しています！



## Future Events —今後のイベント紹介—

### ■ 2017 年 4 月 和歌山大学観光学部は 10 周年を迎えました！



『和歌山大学観光学部 10 周年記念誌』  
表紙デザイン：神堀円花さん（北村ゼミ）

2007 年 4 月に経済学部観光学科として、翌 2008 年からは国立大学初の観光学部としてスタートした本学部は、2017 年度で学部創設 10 周年を迎えました。

これを記念して、『和歌山大学観光学部 10 周年記念誌』が発行されました。本学部の 10 年の歴史の概説に加え、卒業生（1～5 期生）8 名と藤田学部長による座談会の様子も掲載されています。後日、観光学部 HP で閲覧が可能となりますので、是非ご覧ください。

また、2017 年 5 月 28 日（日）には、ホテルグランヴィア和歌山で「和歌山大学観光学部創設 10 周年記念式典・祝賀会」を開催いたします。記念式典では、学部創設時より包括協定を締結し、多くの学生に学びの場を提供いただいている長野県飯田市長 牧野光朗氏による講演も行われます。

## ■ 2017年度 地域インターンシップ (LIP)、Global Intensive Project (GIP) が始まります！

2017年度の地域インターンシップ (LIP)、Global Intensive Project (GIP) の申し込み等が始まります。新入生／在学生ともに、ガイダンスで各説明会の案内が配布されていますので、参加を検討している方は、説明会に参加し、所定の手続きを行ってください。

参考までに、それぞれの申し込み等にかかるスケジュールを掲載しています。不明な点等がある場合は、「観光実践教育サポートオフィス（観光学部棟2階 K216室）」までお問い合わせください。

### ■ 地域インターンシップ (LIP) :

- ・ 4月10日(月) 昼休み LIP 説明会@T101 教室
- ・ LIP 説明会終了後～4月14日(金) までの間 LIP 提案書(各プログラムの概要) 掲示
- ・ 4月17日(月)～21日(月) 参加申し込み期間(受付場所: 観光実践教育サポートオフィス)  
\* 2017年度より、参加申し込みは先着順の受付ではなく、選考による
- ・ 4月24日(月)～ 選考
- ・ 5月初旬 参加学生決定(場合により、2次選考の可能性もあります)
- ・ 5月23日(火) LIP 参加者向けガイダンス →各プログラム始動

### ■ Global Intensive Project (GIP) :

- ・ 4月17日(月) 昼休み GIP 説明会@T101 教室
- ・ GIP 説明会終了後～5月8日(月) 17時 参加申し込み期間(受付場所: 観光実践教育サポートオフィス)  
\* 各プログラム(豪クイーンズランド大学、英オックスフォード大学、加アルバータ大学)とも、先着順での受付となります。  
\* 既に参加申し込みをしている2回生以上の学生、また参加申し込みを希望する1回生は、パスポートの有効期限の確認(パスポートを持っていない場合は取得すること。参加申し込み終了後、航空券の手配等でパスポートを提出していただきます。)、ならびに参加者本人名義のクレジットカードの有無を確認してください。
- ・ 5月中旬～ 各プログラムでの事前学習開始

### □ グローバル・プログラム (GP) 【10期生・11期生】:

- ・ 4月11日(火) 昼休み 1回生向け GP 説明会@T101 教室
- ・ 4月13日(木) 昼休み 2回生向け GP 説明会@T101 教室
- ・ 4月11日(火)～21日(金) 13時 GP 仮登録受付(1回生) / 本登録受付(2回生)  
(受付場所: 観光実践教育サポートオフィス)

### □ Integrated English Program (IEP / IEP Advanced) 【9期生以前】:

- ・ 4月10日(月)～17日(月) 17時 登録申込書(更新分) 提出期間(受付場所: 観光実践教育サポートオフィス)  
\* 指定単位数を取得している場合は、認定証を交付します。観光実践教育サポートオフィスまでお問い合わせください。

#### 編集・発行

(2017年 4月発行)

和歌山大学 観光学部 観光実践教育サポートオフィス

〒640-8510  
和歌山市栄谷 930 和歌山大学観光学部棟2階 K216 室  
TEL/FAX 073-457-8553  
E-mail [tourism-er@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:tourism-er@center.wakayama-u.ac.jp)  
URL <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>

和歌山大学 国際観光学研究センター

〒640-8510  
和歌山市栄谷 930 和歌山大学経済学部南棟1階  
TEL 073-457-7875  
E-mail [info-ctr@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:info-ctr@center.wakayama-u.ac.jp)  
URL <http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/>